

**第 8 次葦崎市総合計画策定に向けた
調査報告書
～施策評価 編～**

内容

(1) 行政による施策評価	1
(2) 市民による施策評価	5

②各課による施策評価の総括

施策評価の結果及びまちづくり指標の達成状況、現行計画の当初課題などを踏まえ、現計画での取組みを下記の通り整理しました。

項目	現計画での取組みと評価
<p>少子高齢化と人口減少社会への対応</p>	<p>【取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ComeBack 支援、移住定住相談、移住体験ツアー、空き家バンク、二地域居住促進、住宅取得支援など移住、定住拡大に向けた施策展開に加え、関係人口の拡大に向けた施策を実施 ●高齢化に対しては、公共交通の維持確保、高齢者タクシー助成、オンデマンド交通を導入 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●中高生の第三の居場所機能が定着し、相談や人間関係づくりの場となっている。移住希望者への伴走支援や空き家バンクの成約、各種補助制度の活用により、市内外の人に萑崎を選んでもらう取組が進んだ。公共交通では高齢者や交通弱者の満足度向上、新規利用者の獲得といった効果が見られた。 <p>【課題・展望】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●若者・女性に届く情報発信や施策の磨き上げが必要である。住宅供給の不足、空き家活用の更なる推進、二地域居住者を将来的な定住につなげる住宅施策の展開が求められる。公共交通は運転手不足、物価高、人件費増により持続性確保が課題であり、効率的運行や受益者負担のあり方の検討が必要である。
<p>夢を持ち、明日を担う人材を育むまち</p>	<p>【取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●子育て支援センター、放課後児童クラブ、こども家庭センターの整備、多子世帯支援、保育園民営化、こども計画・子どもの権利条例の策定、保育 ICT 化、母子保健事業、不妊・産後ケア支援、幼保小連携、学校教育 ICT 環境整備、キャリア教育、青少年健全育成、生涯学習講座、図書館機能充実、文化ホール改修、文化部活動の地域移行、史跡・文化財の保護活用などを進めている。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●子育て支援は施設整備と独自補助により、ハード・ソフト両面で拡充した。母子保健と児童福祉の一体的支援、多子世帯支援、保育サービス維持・充実、保護者利便性向上が進んだ。教育分野では、生きる力の育成、ICT 環境整備、多様性を尊重した教育機会の確保、幼児期からの一貫教育の推進が図られた。歴史文化分野では、企画展、デジタル化、文化財指定・保護、芸術文化の発表機会拡充により、郷土愛や文化芸術への関心の向上が見られた。 <p>【課題・展望】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●多様化する家庭ニーズに対応したきめ細かな支援、子どもの権利を尊重した施策運用、こども計画の実効性検証が必要である。教育では、少子高齢化や生成 AI など社会変化を踏まえた ICT 活用、多様性包摂、安全安心な学習環境整備が継続課題である。文化面では、施設老朽化対応、文化財継承、既存施設の統合・再編、文化部活動の平日展開も見据えた合意形成が求められる。
<p>思いやりあふれる福祉のまち</p>	<p>【取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●障がい者相談支援、地域生活支援、権利擁護、就労支援、生活困窮者支援、地域まるごと介護予防、介護支援ボランティア、シニアカレッジ、高齢者の通いの場づくり、介護給付適正化、健康状態不明者への戸別訪問などを実施している。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●生活課題の軽減、社会参加促進、地域理解の醸成が進んだ。 ●生活困窮者支援では、就労による自立を促す成果が出ている。 ●高齢者福祉では、介護予防や通いの場づくりにより、住み慣れた地域での参加、生きがいづくり、健康増進につながっている。介護保険分野では、ケアプラン点検や訪問により、給付適正化と健康状態把握が進んだ。 <p>【課題・展望】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●障がい・生活困窮・高齢者福祉いずれも支援ニーズが複雑化しており、関係機関連携、人材育成、切れ目のない支援体制の強化が必要である。 ●特に高齢化の進展により、介護予防、地域の通いの場、生活支援体制づくりの重要性が一段と高まっている。

項目	現計画での取り組みと評価
元気で健やかに暮らせるまち	<p>【取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●総合健診、がん検診、人間ドック、後期高齢者人間ドック、アピアランス支援、保健福祉センター改修、定期予防接種、新型コロナ対応、国民健康保険の医療費適正化、スポーツ協会・少年団・地域部活動・スポーツコミッション支援、中央体育館整備、スポーツイベント開催などを進めている。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●習慣病や重篤疾患の早期発見、生活習慣改善のきっかけづくり、健康意識向上につながった。予防接種では医師会と連携し、円滑かつ効率的な接種体制を確保できた。国保事業では医療費抑制に一定の効果があった。スポーツ分野では、健康増進、競技力向上、生活の質向上、施設整備による利便性向上、地域経済活性化に寄与している。 <p>【課題・展望】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●健康分野では、「いきいき健康プラン」に基づく評価・検証とPDCAの強化が必要である。感染症対策では新型インフルエンザ等行動計画に基づく備えが求められる。スポーツ分野では、施設老朽化への対応、中央体育館の活用促進、スポーツコミッションの民営化による効率化と収益性向上、多様な連携の構築が課題である。
安全・安心に暮らせる強いまち	<p>【取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●消防団再編、消防設備整備、防火啓発、防災行政無線デジタル化、防災アプリ導入、備蓄品拡充、総合防災訓練、地域防災・減災リーダー育成、急傾斜地・河川等の災害対策、道路整備、橋梁・トンネル点検、道路整備計画策定、都市計画マスタープラン策定、公園整備、住宅耐震化、市営住宅・定住促進住宅管理、水道耐震化、下水道整備などを実施している。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●消防団員処遇改善や設備更新、防災情報伝達体制の充実、訓練参加者増、防災人材増加により、防災力の底上げが進んだ。災害危険箇所対策では、自然災害による死者発生未然防止につながっている。道路や橋梁の整備・修繕、道路整備計画の策定により、効率的な事業執行と安全性向上が図られた。都市計画マスタープランにより中長期的なまちづくりの基盤が整理された。住宅耐震化率は高水準に達している。 <p>【課題・展望】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●消防団員確保の難しさ、防災アプリの普及拡大、実災害時に機能する仕組みの整備、より実践的な訓練の実施が課題である。 ●都市整備では、人口減少・少子高齢化を前提とした持続可能で効率的な整備、未対策危険箇所の改修、特定空家認定基準整備、公園・住宅・上下水道施設の老朽化対応、料金や管理戸数の見直しなどが必要である。
美しいふるさとを誇れるまち	<p>【取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●水質調査、環境学習、オオキンケイギク駆除、家庭用蓄電池・電気自動車・生ごみ処理機等への補助、ごみ減量・分別の啓発、空き家・草木繁茂への対応、穂坂自然公園の維持管理、企業連携による里山保全、森林整備、間伐、支障木処理、合併浄化槽普及などを進めている。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●環境教育により意識啓発が進み、特定外来生物の減少が見られた。蓄電池や生ごみ処理機の普及が進み、資源循環や脱炭素の取組が前進した。空き家等の適正管理、自然公園の安全確保と満足度維持、森林整備による景観対策・防災機能向上、公共用水域の水質改善などの成果が出ている。 <p>【課題・展望】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●特定外来生物対策はより広域的・大規模な駆除が必要である。クリーンエネルギー機器や生ごみ処理機のさらなる普及促進、老朽化した自然公園施設の更新、森林整備の継続的な管理体制構築が求められる。
魅力と活力に満ちた豊かなまち	<p>【取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●工業団地拡張・造成、企業誘致、設備投資支援、先端設備導入支援、商工会との連携によるまちなか活性化、新規店舗支援、小規模事業者への資金繰り支援、オープンファクトリー、観光協会による周遊促進、地域情報発信センター充実、ワイン振興、観光資源PR、ふるさと納税強化などを実施している。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●工業団地売却や企業立地により税収増加と雇用創出が進んだ。補助制度や商工会事業により新規店舗が増え、まちなかの賑わい創出につながっている。資金繰り支援や経営支援により小規模事業者の事業継続を下支えできた。観光では観光基盤整備、観光客入込数やイベント来場者数の増加、満足度向上が見られる。

項目	現計画での取組みと評価
	<p>【課題・展望】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●未完成工業用地の早期完成と企業立地促進、支援制度の見直し、働き世代の定住支援、中心市街地の駐車場不足解消、外国人向け情報発信、ワインのブランド力強化、新たな返礼品開拓などが課題である。
<p>市民が主役の持続可能なまち</p>	<p>【取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●委員公募やパブリックコメント、まちづくりミーティング、市民提案制度、女性議会・高校生議会、パートナーシップ制度周知、市民活動団体への支援、地区長負担軽減、外部評価、財政シミュレーション、補助金適正化、PPP/PFI 導入、DX 推進、生成 AI・コミュニケーションツール導入、マイナンバーカード普及、税収納強化、副業兼業制度研究、業務量調査などを進めている。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●市民参加の機会拡充により、多様な年齢・立場の意見聴取が進んだ。市民活動団体支援により、自治意識の醸成と地域課題解決力の向上が図られた。男性育休取得促進や女性活躍企業支援により、働きやすい職場環境づくりを後押しした。外部評価や財政指標管理により透明性と健全財政を維持している。PPP/PFI や DX 導入、QR 納付、航空写真活用などで効率化と業務高度化が進んだ。 <p>【課題・展望】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●市民参加の担い手の固定化防止、若者・女性の参画拡大、男女共同参画意識のさらなる浸透が必要である。財政面では税収減と歳出増が見込まれ、より厳しい運営が予想されるため、事業重点化、進捗の見える化、PPP/PFI・アウトソーシング・DX の一層の推進が求められる。副業兼業や業務改善も制度化・全庁展開が課題である。
<p>チーム葦崎によるまちづくり</p>	<p>【取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●各種計画策定時の委員公募やパブリックコメント、まちづくりミーティング、市民提案制度、女性議会・高校生議会の実施により、市民が政策形成やまちづくりに参加する機会を広げてきた。 <p>また、市民活動団体の設立支援や活動補助を通じて、地域課題の解決を市民主体で進める環境づくりを行ってきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●幼保連携、部活動地域展開、PPP/PFI の導入・指定管理、情報発信など、行政分野における民間との連携も進められた。 <p>【課題・展望】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●担い手不足のなかで協働をどう持続させるか ●若者や女性など新たな担い手をどう巻き込むか ●協働の成果をどう見える化するか ●役割分担と責任の明確化をどう進めるか

(2) 市民による施策評価

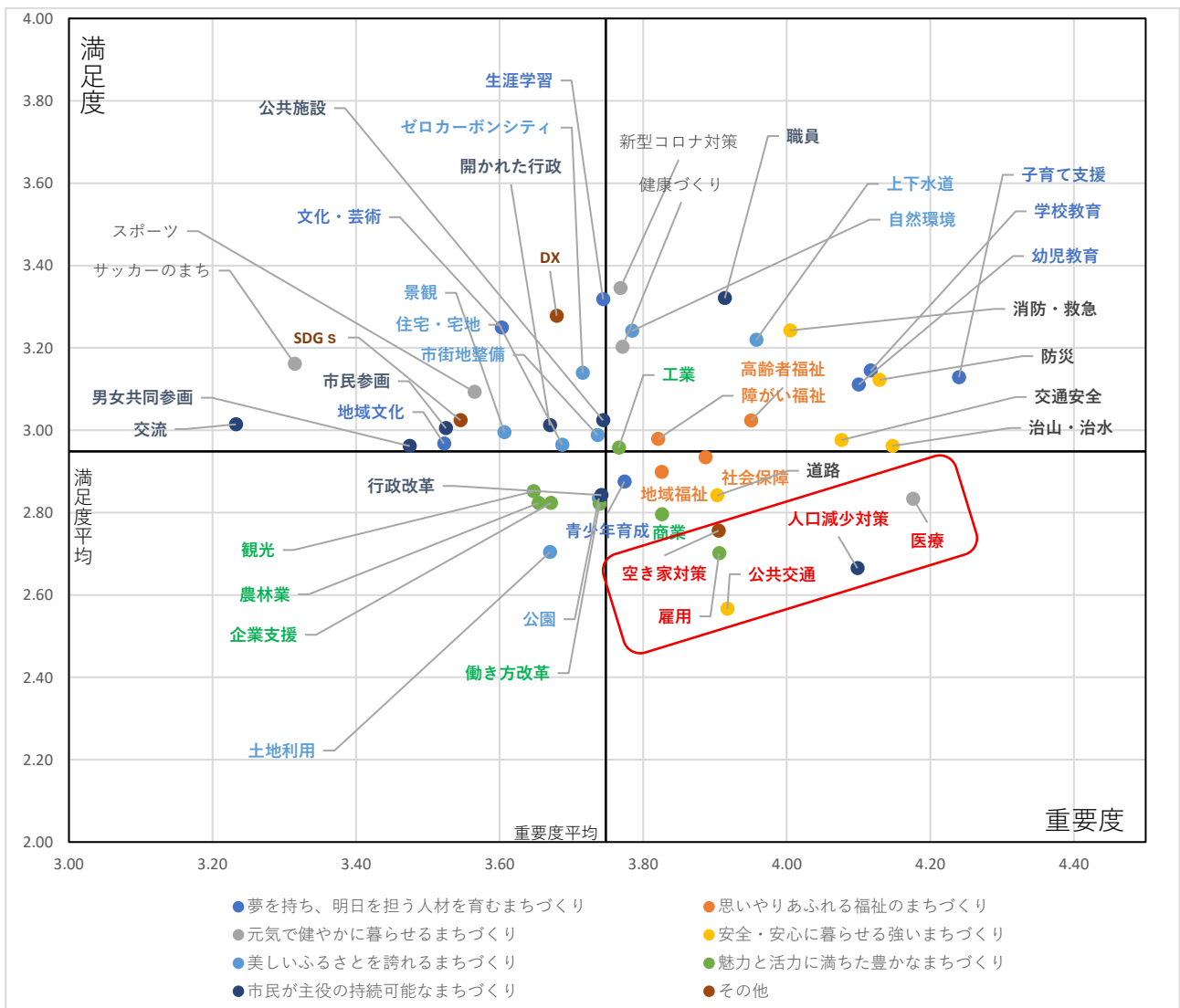
①市民による施策評価の概要

韮崎市民の施策に対する評価を検証するために、「韮崎市のまちづくりに関するアンケート調査」を実施している。第7期韮崎市総合計画に対する韮崎市民の評価を把握するために、令和7年度に実施した当該アンケートの結果を整理した。

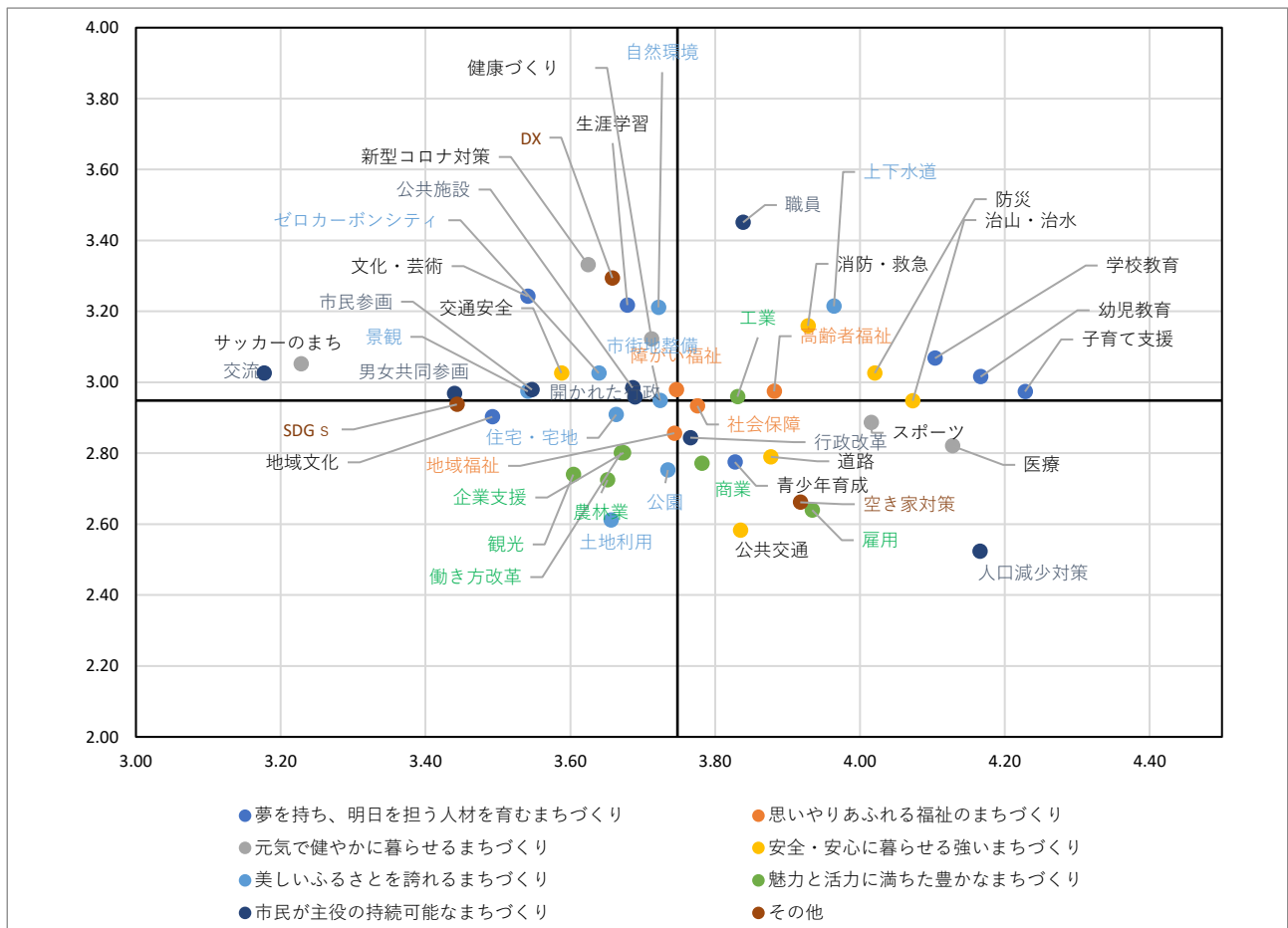
<p>【調査概要】 韮崎市第7次総合計画の施策とDX、SDGs、空き家などの項目（48項目）に対して「満足度」（1.満足していない～5.満足している）「重要度」（1.重要でない～5.重要である）の5段階評価を実施。対象は韮崎市に住む18歳以上の男女</p> <p>【調査期間】 令和7年6月13日（金）～令和7年7月25日（金）</p> <p>【分析方法】 満足度・重要度の回答を数値化（1.満足していない～5.満足している）（1.重要でない～5.重要である）し、その平均値をその施策の重要度・満足度の指標とする。（最低1、最大5）</p> <p>【回答総数】 249件</p>
--

②市民による施策評価の結果

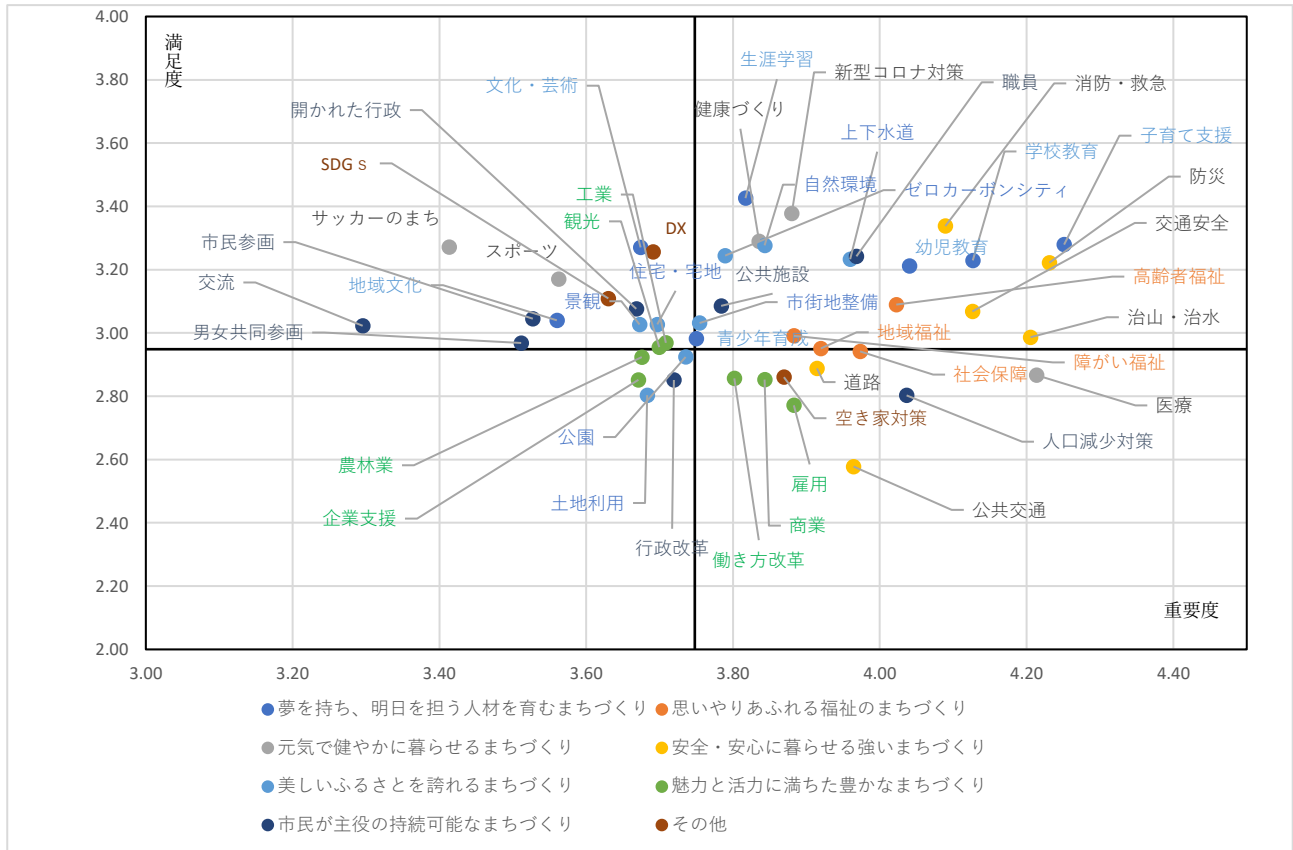
調査・分析の市民にとって重要度が高いかつ満足度が低い施策は「人口減少対策」「公共交通」「雇用」「医療」「空き家対策」の5つであった。



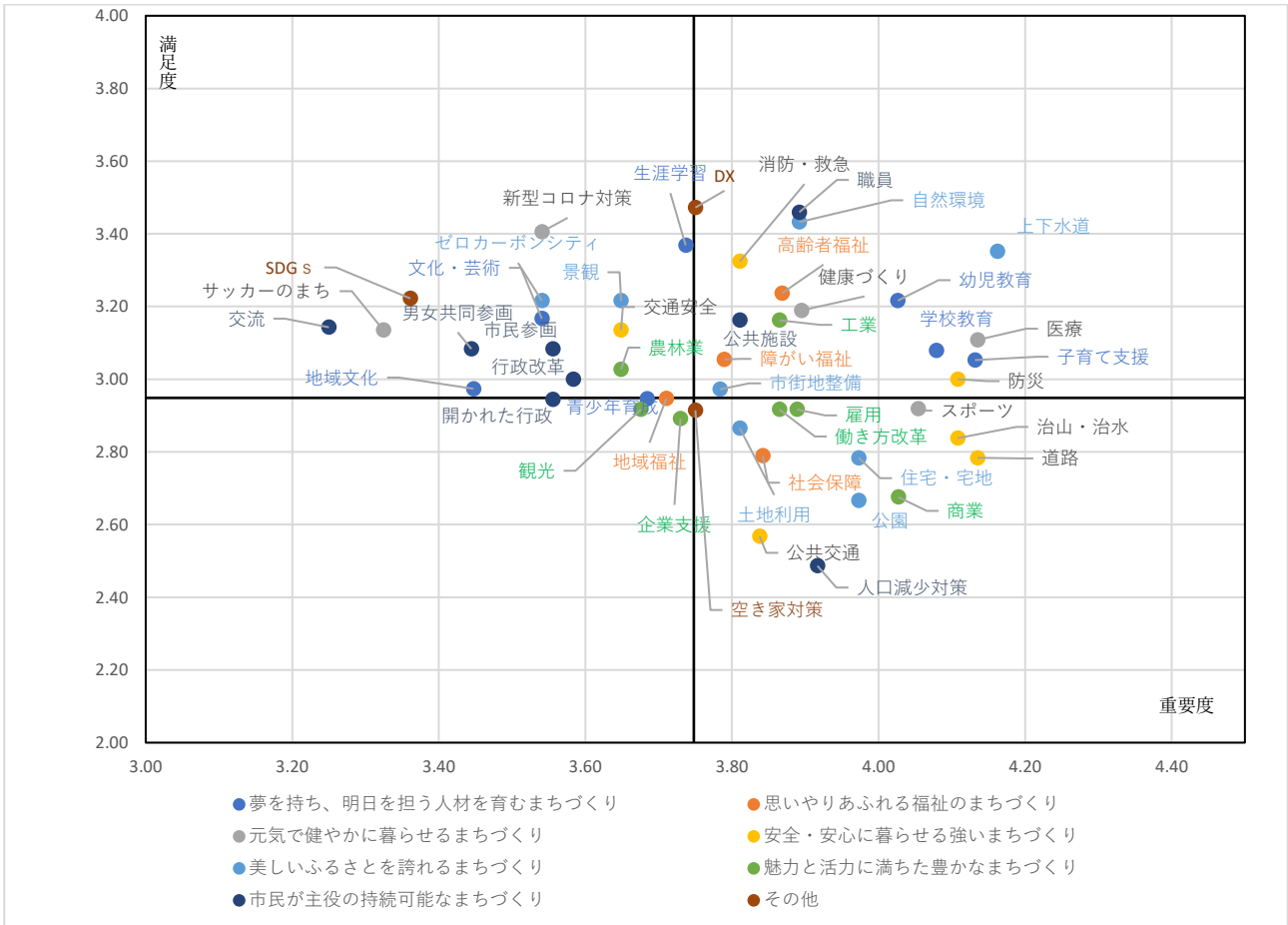
※参考:属性(性別・年齢)別施策評価
【男性 n=198】



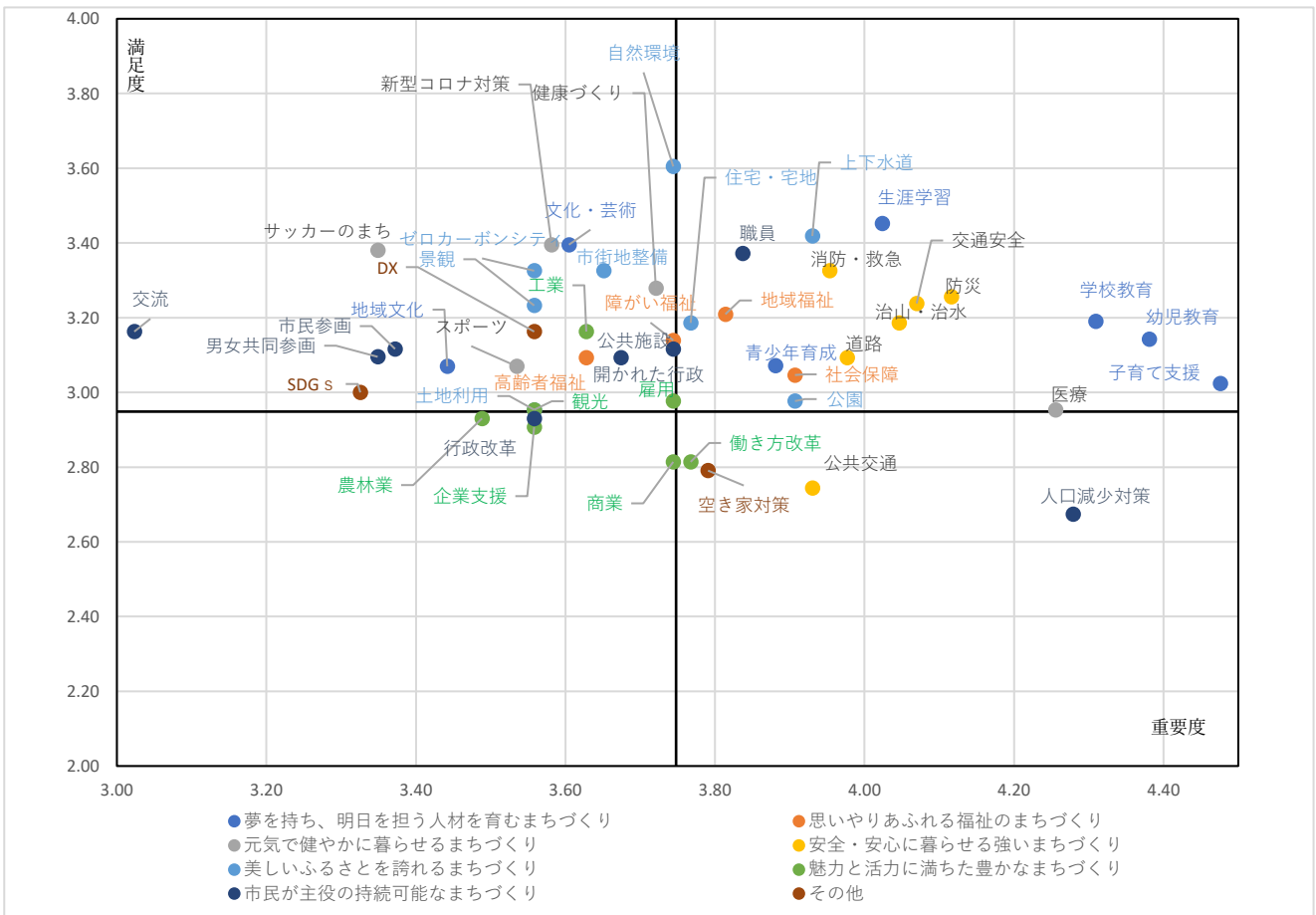
【女性 n=227】



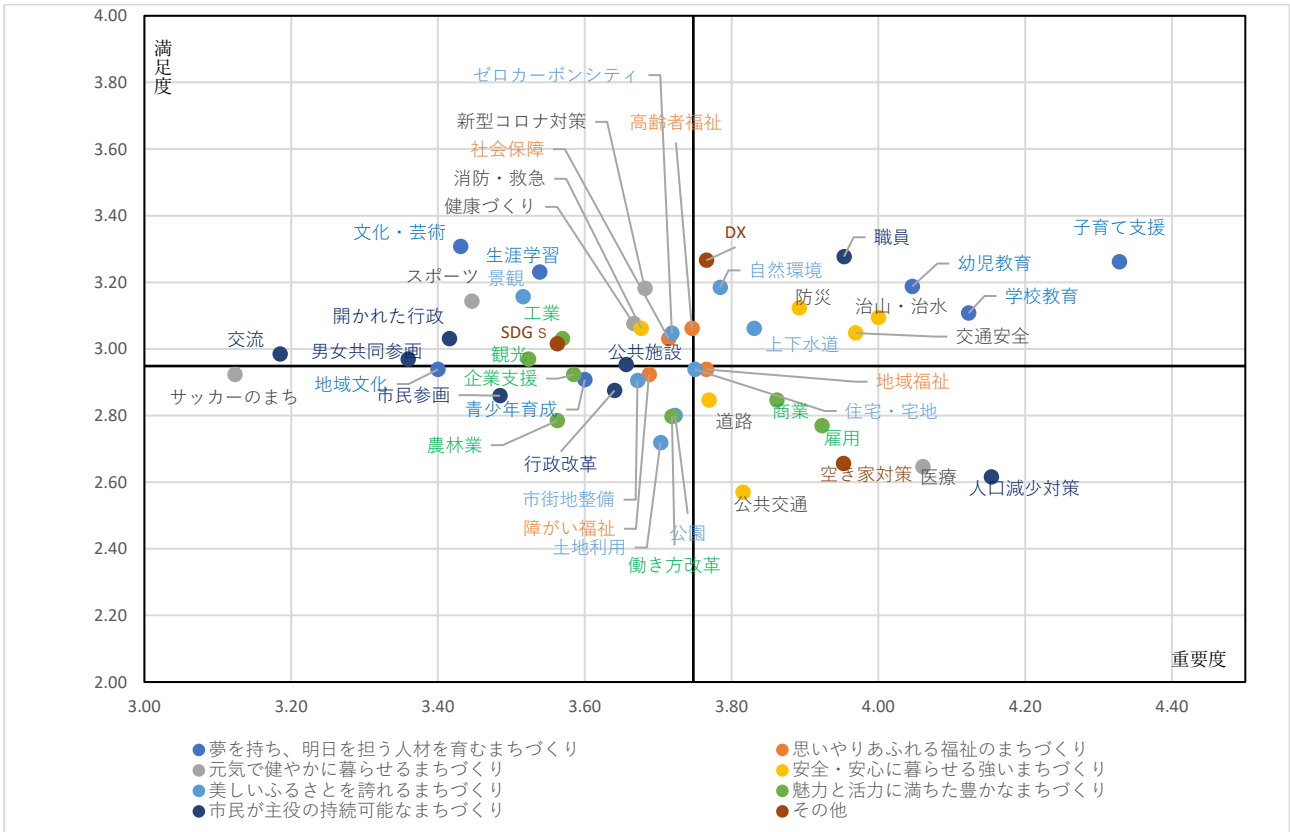
【20代 n=38】



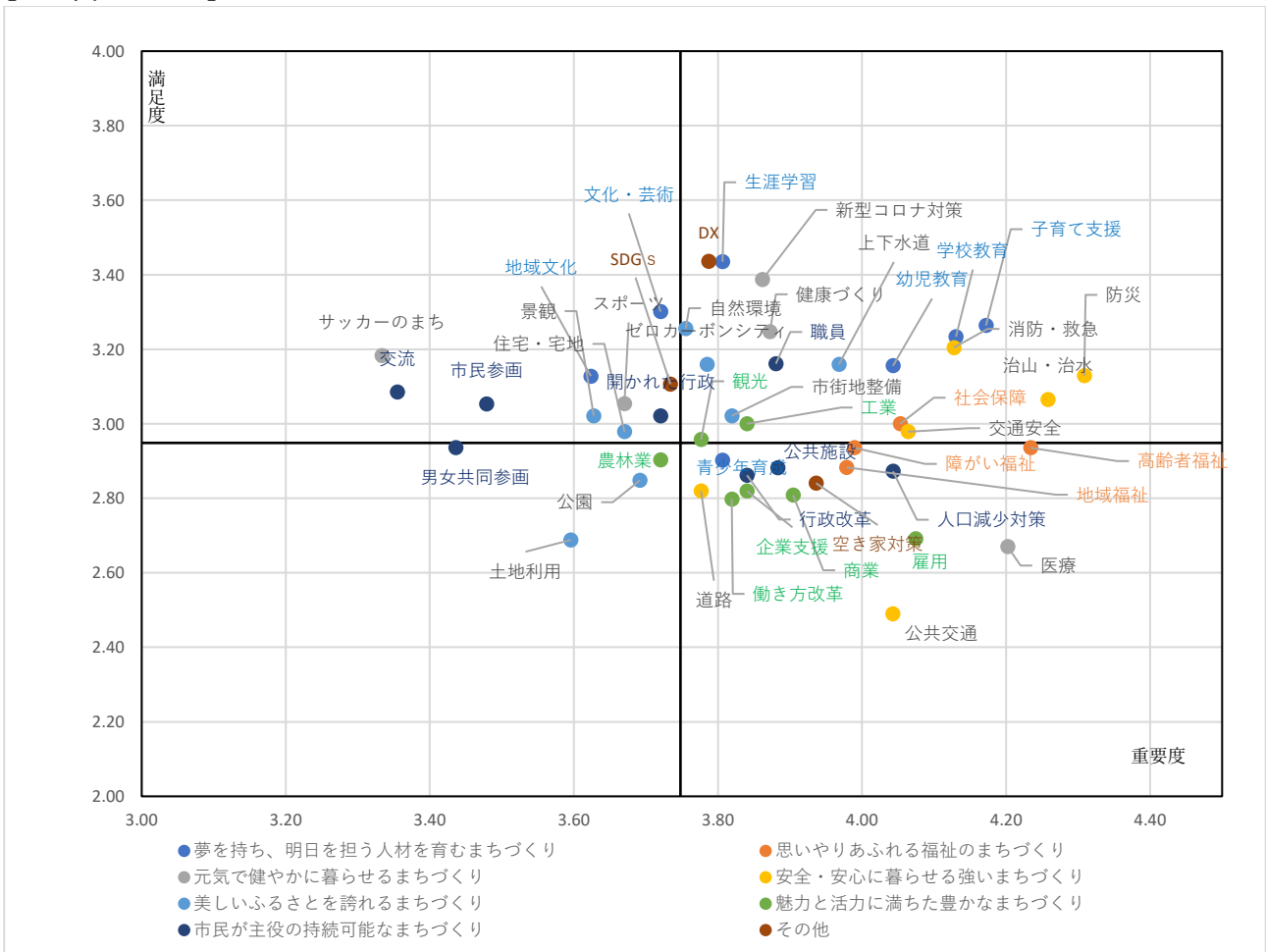
【30代 n=43】



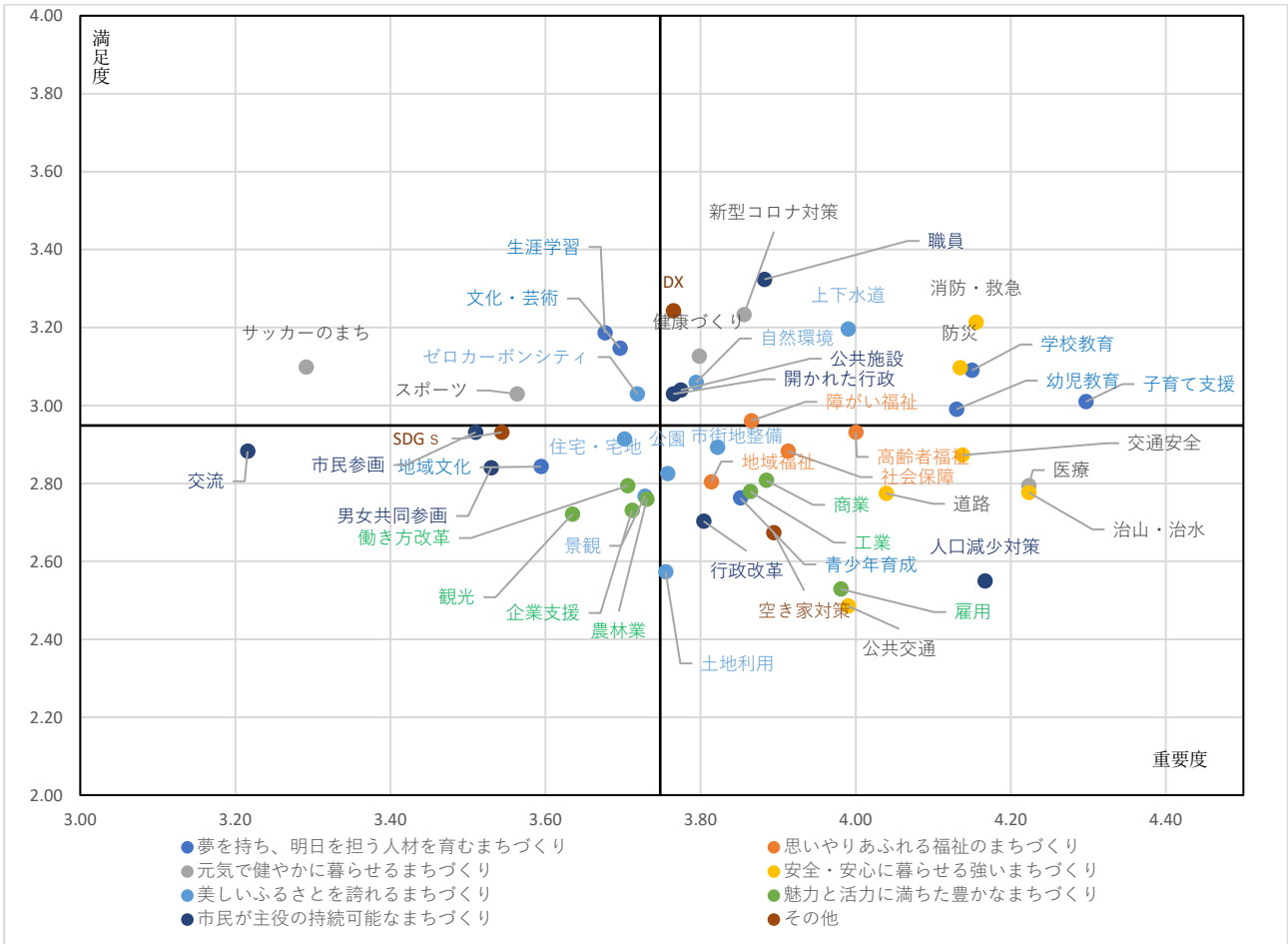
【40代 n=66】



【50代 n=94】



【60代 n=104】



【70代以上 n=84】

